

業界調査報告書「愛媛の農業～県内生産者の現状と今後の方向性～」要旨

- ・愛媛における農業産出額は70年代から急増し、84年には2,100億円に達したが、その後は減少傾向が続き、07年には1,237億円まで落ち込んでいる。07年の農業産出額を分野別にみると、果実が最も多く、全体の34.0%を占め、その構成比は全国を大きく上回っている。
- ・耕地面積は70年と08年を比べると約4割減少しており、全国に比べて減少幅が大きい。また、耕作放棄地面積は増加傾向にあり、耕作放棄地面積率は11.5%で、全国(5.8%)を大きく上回っている。耕作放棄地が増加している理由として、愛媛は急傾斜地の樹園地が多く、野菜などへの転作が難しいことが考えられる。
- ・総農家数は、60年には13万8千戸あったが、05年には約5万6千戸になっている。高齢化も進行しており、基幹的農業従事者のうち、60歳以上の占める割合は、05年には74.2%となっている。
- ・県内の生産者へのヒアリングを基に収支状況を見ると「黒字」が36.2%、「収支トントン」が35.1%、「赤字」が28.7%となっている。なお、「黒字」と回答した先の4割弱が「収支上は黒字でも、労働の対価に見合った収入がない」と回答するなど、生産者の厳しい経営実態がうかがえる。生産者が抱える問題について尋ねると、最も多かった回答は、「従事者の不足」で、次いで「収入が少ない」、「従事者の高齢化」などが続いた。また、生産者が今後取り組みたいこととしては「高収益の品種・品目への転換」、「生産物の品質向上」、「販路拡大などを含む流通改革」などがあげられた。
- ・農産物に対する県内消費者の意識をアンケートした結果、農産物を購入する際、最も重視することは「鮮度」が82.6%であり、次いで「産地(国産、外国産、地元産)」が52.1%、「価格」が40.0%となった。農産物のブランド化の動きもあるが、購入時に「ブランド」を重視する人は0.7%と、消費者にとってあまり関心がないという結果であった。また、県内産を重視する割合は、全体では5割を超えており、60歳以上では69.6%と、高齢者ほど重視する割合が高い。
- ・IRCでは、愛媛県内の農業が持続的に発展していくための課題は、「販路の拡大」、「品質・価値の向上」、「経営の効率化」、「従事者の確保・育成」と考え、方向性を取りまとめた。

以上